

ミソガワソウ	<i>Nepeta subsessilis</i> Maxim.	絶滅危惧 I 類
		シソ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(加藤範夫)
形態の特徴	茎は四角形で、直立し、分枝せず、高さ50-100cmになる多年草。葉は広卵形～広披針形で有柄、両面に疎らに毛があり、鋭尖頭で鈍い鋸歯がある。花期は7-8月。上部の葉腋ごとに数個の紫色の唇形花を開き、多数集まって花穂となる。	
生態的特徴	亜高山の川原や草地に生える。多数集まって群落を形成することが多い。	 
分布状況	日本固有の種。北海道、本州、四国に分布する。県内では県北の北西部及び北東部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県北の北部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定できることのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良